

1 (2) 多様な対象者のための学習講座  
 ① 民具説明会 (2)  
 「暑い夏の過ごし方展」

令和元年7月2日～7月19日の内の17日間  
 体験講座：令和元年7月6日  
 於：砺波民具展示室

○「暑い夏の過ごし方」展示写真



盛夏に使用した民具を集め、クーラーのない時代の人々の暮らしを探り、生きる知恵や工夫を学ぶ。

クーラーのない時代、暑い夏を乗り切るため、さまざまな工夫がなされた。五感を使って涼しく感じる工夫（手桶で打ち水をする。風鈴を使う。ざらっとした手触りの麻製品や織の着物を使う。須戸を入れる。陶器製の枕、蚊帳、ゴザ。等々。）、食べ物が悪くならないようにする工夫（つる製のお櫃、麦茶ひやし。等々。）四季のある日本の暮らしの繊細さが、夏場の暮らしに見て取れる。

○体験講座「一緒に浴衣を着てみませんか？」・・・講師：渡辺学芸員



暑い夏を涼しく過ごすために、上等な着物としては、絹製の絹や紗という織り方の単衣を着ており、砺波民具展示室の「砺波の生活・生産用具」の中にも収蔵している。今回、普段着として着用していた浴衣を取り上げ、浴衣の着方の体験講座を開催した。今では生活様式が異なり、「よそ行き」となってしまった浴衣だが、浴衣を含む着物は、日本の風土や暮らしに合うように定着し変化してきた。実際着用することで、他の生活用具などとの関連・相互性を感じることができた。

○受講者・来館者の感想

- ・内容が面白い。民具もシリーズ化して展示されたら良い。もう少し早めの広報を！
- ・SNSなど広報の仕方を考えてほしい。・幅広い年代の参加がある方がよい経験になるのでは。

○評価と課題（主催者側の感想）

- ・多様な周知の方法が必要であった。入館者は155人。
- ・小企画展を開くにあたり、対象層を考慮するようになった。同時に見せ方についてご意見を賜るようになり、多くの智慧が得られることに気づく。小さな企画展でも多くのことを考えねばならない。今回は女性の来館者が多く、女性の日常に合致したテーマだったと言える。
- ・活動後、受講者がSNSで活動や感想を広めてくださったのが大変効果的であった。

<https://1073shoso.jp/www/museum/detail.jsp?id=19681>